
多面的機能支払 メールマガジン

「農村ふるさと保全通信」第 77 号(2019. 12. 9)

農林水産省農村振興局 多面的機能支払推進室



高めよう 地域協働の力!

多面的機能支払のメールマガジン「農村ふるさと保全通信」の第 77 号をお届けします。

今回の活動組織紹介では、地域ぐるみで基礎的な農地維持活動や生態系保全活動に取り組んでいる組織と、地域を流れる川の両岸に芝桜を植栽し、景観形成を行っている組織を紹介します。

事務局からは、活動組織の代表者インタビュー、イベント報告について紹介します。

--- 第 77 号の目次 -----

1. 活動組織の紹介

☆ 当目町^{とうめちよう} エコクラブ (滋賀県^{ながはま} 長浜市) ☆

☆ 新屋敷^{あらやしき} 地区農村環境保全向上推進協議会 (富山県^{となみ} 砺波市) ☆

2. 活動組織の代表者インタビュー

☆ 志田谷地^{しだやち} 地域環境保全組合農地・水・環境保全管理協定 (宮城県^{おおさき} 大崎市) ☆

3. イベント報告! ~「令和元年度 田園自然再生活動の集い」~

(編集後記)

■ 1. 活動組織の活動紹介(1)

～ とうめちょう エコクラブ(滋賀県 ^{ながはま}長浜市)～ ■

～地区概要～

滋賀県長浜市北東部の ^{ななお}七尾山の麓に位置する平地農業地域を拠点に活動。

活動範囲は、田 16.8ha、水路 3.8km、農道 1.5km。

～主な取組～

- ◎当地域では、農家の高齢化が進み、農地や水路等の維持管理が難しくなったことから、農家だけでなく非農家も参加した地域ぐるみで活動に取り組み始めました。
- ◎基礎的な保全活動として、農地周りの草刈りや水路の泥上げ等を行っています。特に水路の泥上げでは、人の力だけでなくバックホウなども利用して効率的に作業に取り組んでいます。
- ◎また、水路の目字詰め作業は、モルタルやコーキング材などの施工方法をいくつか試しながら現場に合った工法で施工しています。毎年少しずつ順番に実施したことで、用水路全体の施工がほぼ完了しました。
- ◎生態系保全にも力を入れており、子ども達を巻き込んで生きもの観察会を行っています。このような活動により子ども達とも交流を重ねることで、地域住民同士の絆が更に深まったと感じています。
- ◎今後も、“できることから少しずつやっ
ていこう”の精神で、農家と非農家で力を合わせて活動を続けていきたいと考えています。



排水路の草刈り



バックホウを利用した泥上げ



水路の目地詰め



生きもの観察会



先進地研修の様子
(岐阜県 ^{はしま}羽島市)

【当目町エコクラブ 代表 伊吹重樹】

■ 1. 活動組織の活動紹介(2)

～ 新屋敷^{あらやしき} 地区農村環境保全向上推進協議会(富山県 砺波^{となみ}市)～ ■

～地区概要～

富山県西部砺波平野のほぼ中央に位置する平地農業地域を拠点に活動。

活動範囲は、田 28.5ha、水路 4.8km、農道 3.6km。

～主な取組～

◎本組織は、高齢化に伴う農業の担い手の減少及び新興住宅による混住化の進行のほか、地区中央を流れる^{がんど}岸渡川が地域を二分していることから、農地や農業用水を守る地域のまとまりが弱くなりつつありました。そのため、本交付金を活用した地域ぐるみでの農地維持や景観形成の活動を行うことで、地域全体の活性化を図っています。

◎特に水路の泥上げにおいては、自治会長等に制度の目的や役割を説明して理解してもらい、農家だけでなく近隣住宅地の非農家の活動参加を促しています。

◎地区中央を流れる岸渡川では、農家・非農家の共同活動により芝桜を植栽し、維持管理の継続及び美しい景観形成を図っています。両岸にピンクの回廊空間が完成し、芝桜まつり等を通じ、県内外から多くの観光客が来訪しています。

◎これらの活動を通じ地域のまとまりが強くなり、現在では「農事組合法人新屋敷営農組合」が設立され、本協議会としては草刈りや泥上げ等で地域資源の保全管理を支援しています。今後は、砺波市が進めている景観まちづくりの観点からも様々な取組みを実施していきます。



農家・非農家が協働で行う
水路泥上げ



芝桜まつり



水路沿いの芝桜

【新屋敷地区農村環境保全向上推進協議会 代表 野澤 敬】

■2. 活動組織の代表者インタビュー

～志田谷地^{しだやち} 地域環境保全組合農地・水・環境保全管理協定(宮城県

大崎^{おおさき}市)～■

組織の概要

宮城県中部(大崎市^{かしまだい} 鹿島台)に位置し、北に鶴田^{つるた}川、南に吉田^{よし}川が流れる水田地帯を拠点に活動。活動範囲は、田 252.0ha、水路 46.0km、農道 26.3km。平成 19 年度の農地・水・環境保全向上対策の制度開始時から共同活動に取り組んでいる。

～インタビュー～

Q：どのような経緯で組織を立ち上げられたのでしょうか。

A： 本組織は、平成 19 年度の「農地・水・環境保全向上対策」制度のときに立ち上がりました。昔は農業集落には当然のようにあった「ゆい(結)」の精神。多大な労力と時間を要する作業は、集落のみんなが総出で助け合って行う。近頃、そんな「ゆい」の精神が薄らいできたと感じていた矢先、共同活動を基本とする本制度ができると聞いて先代の会長が奔走、組織を立ち上げました。平成 23 年度には広域化を図り現在に至っています。



左：板垣^{いたがき} 勝^{まさる} (会長)
右：武藤^{むとう} 勝美^{かつみ} (会計)

Q：組織を運営する中で苦労したことはありますか。

A： 組織の代表としては、役員スタッフに良い人が多いため、運営上で苦労したと感じたことはありませんが、これまで運営を行ってきて、役員スタッフ同士の連携が非常に重要であることは実感しています。これがうまくいっていけば、組織も活動もうまくいくと考えています。やはり人と人との繋がりが重要であるということでしょうか。

また、運営の話とは別になりますが、組織活動の面から感じることは、若い人たちの参加率が低くなってきていることです。構成員には勤めに出ている方も多くおり、特に働き盛りの若い人たちの参加が減ってきていることが気がかりです。

Q：代表（役員）として心がけていることはありますか。

A： 先の質問で若い人たちの参加が減っていることが気がかりとお話しましたが、代表としては、構成員が「参加して良かった」と思って頂けるような活動づくりをしていくことが、自ずと参加率向上に繋がるものと考えています。一方で、本交付金の活動は農地や農道等の管理に直結するものであるため、せつかく参加して頂く構成員にも、しっかりとした作業を行っていただくよう指導する必要があります。言葉は悪いですが、アメとムチのバランスには苦労しているかもしれません。併せて、活動中に怪我がないように安全管理には十分気をつけています。

Q：活動を行って良かったことはありますか。

A： 水路や農道等の保全活動を構成員が集まり、みんなで行うことで、コミュニティ・交流が生まれ、更なる活動への原動力となっています。最近では活動外ではありますが、作業後の懇親会も増えているようです。構成員間の交流が増えたことが、活動をして一番良かったことと感じています。

Q：役員選出等で苦労していませんか。また、組織強化について取り組んでいることはありますか。

A： 役員選出については、各集落の代表役員等から事前に次の役員に目星を付け、声かけをして頂いております。広域組織であるため、比較的構成員の人数も多いため、現時点において役員選出で苦労はしていません。広域組織のメリットかもしれませんね。一方で組織の強化・活性化のためには若い人を役員に選出し、若返りを図ることも重要と考えています。そのため、日頃から若い人たちとコミュニケーションを図るよう意識しています。

Q：最後に今後の展望や目標をお聞かせ下さい。

A： まずは、長寿命化の活動において、補修や更新を行わなければならない施設が多くあるため、計画に沿ってコツコツと実行していきたいと考えています。また、草刈作業負担の軽減のため、カバープランツ等にも取り組んでみたいと考えています。構成員から「活動を行って良かった」「活動に参加して良かった」との声が聞けるよう、努力していきたいと思えます。

最後に、組織を代表してのお願いですが、多面的機能支払交付金は地域にとって、非常にありがたい制度となっておりますので、是非とも継続して頂きたいと思えます。

■3. イベントの報告！

～「令和元年度 田園自然再生活動の集い」～■

11月25日（月）に東京大学弥生講堂において、（一社）地域環境資源センターの主催による「田園自然再生活動の集い」が開催されました。5回目の開催となる今年度は、『世界に広がる農村の魅力 地域づくりのこれから』をテーマに、有識者による講演や、NPO法人、多面的機能支払交付金の活動組織の代表者による活動発表、パネルディスカッションが行われました。

（株）The Japan Travel Companyの代表取締役社長であるクリスティール氏が行った講演では、「田舎の資源を活かしたインバウンド観光～Walk Japanの28年の歩み～」をテーマとして、インバウンド観光の秘訣や今後の方向性等のお話がありました。

活動発表では、「山里NPO～自立した地域づくりに向けて～」、「魚のゆりかご水田から見たSDGs」、そして「筑波山麓「すそみ」の活動～生きものと共存する米づくりから森を元気にする薪づくりまで～」の3事例の発表がありました。それぞれ、自分たちの力でなんとかする「免疫力の高いコミュニティ」の形成に向けた取組、6次産業化や世界農業遺産の認定に向けた取組、地域企業と連携した自然環境保全の取組など、方法は異なりますが、持続的に農村環境を守るための具体的な事例について紹介がありました。

パネルディスカッションでは、農村の魅力を世界に伝えるためには、まず地元をしっかりと見つめ、その良さを知る、地域内外との交流を深めていく、知ってもらうためのしくみづくりが大切である、といった意見が出ました。どうやって地域の価値や魅力を高め、経済的価値と社会的価値のバランスをとっていくのか、出演者から活発な意見が交わされました。

また、当日は、会場へのアンケート結果の集計が即時にできるシステムを使い、出席者全員に対して講演の感想等のアンケートを行ったところ、インバウンド観光に興味を持った参加者が多数いることがわかりました。

最後に、「田園自然再生活動推進宣言」を会場の全員で唱和し、「令和元年度田園自然再生活動の集い」は幕を閉じました。



講演の様子（ポール氏）

■編集後記■

さて、前号のメールマガジンで札幌発祥のスープカレーについてお話ししましたが、今回は私の出身地である石川県の「8番ラーメン」をご紹介します。

8番ラーメンという名前は、本店が国道8号線沿いにあることが由来で、なるとの代わりに「8」とかかれたかまぼこがトッピングされていることが特徴です。野菜ラーメンは本当に野菜たっぷりで、スープは、味噌・醤油・塩・とんこつ・バター風味の5種類から選べます。個人的なおすすめは味噌です。

地元へ帰省する度に家族で8番ラーメンに行っており、私のソウルフードといっても過言ではありません。店舗は石川県だけでなく、北陸全域に展開していますので、機会がありましたらぜひご賞味ください。



8番ラーメン

◇バックナンバー◇

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/nouson_furusato_hozen/index.html

バックナンバーはこちらからもご覧いただけます！→



◇令和元年度多面的機能支払交付金のあらまし◇

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai.html

◇「多面的機能支払交付金のロゴマーク」◇

ロゴマークは以下のサイトからご利用になれます。
どんどんご活用ください！！



高めよう 地域協働の力！

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/nouson_furusato_hozen/H29/pdf/logo.docx

◇配信先メールアドレスの変更・配信解除等◇

メールアドレス等の変更やメールマガジンの配信解除等は以下のサイトから！

<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

手続きにはパスワードが必要です。

お忘れの場合は、以下のサイトでパスワードを再発行して下さい。

<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/re.html>

◇ご意見・ご感想等◇

メールマガジンに関するご意見・ご感想や取り上げて欲しいテーマ、ご自身の所属する活動組織の紹介文（300字程度）等に関するメールをお待ちしております！！

tamen_ml@maff.go.jp

【発行】

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局整備部農地資源課

多面的機能支払推進室（担当：藤田、新谷）

TEL：03-3502-8111（内線5493）
